

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年11月27日

事業所名 IQLino都島校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	71%	29%		利用人数が増えてもプログラムに支障が出ないように、安全面に気をつけてスペースを確保させていただいております。
	2	職員の配置数は適切である	86%	14%		教室に配置された職員の数が出来る限り多くなるよう、配慮しております。専任のドライバーの増員を予定しております。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	57%	43%	道路に面しているため、交通の騒音に配慮して療育を進めております。	スロープの設置や、玄関先の段差などについて、整備を含めて、改良させていただき予定です。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	86%	14%		毎月定例でスタッフミーティングを開催し、業務改善に努めております。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	86%	14%		令和4年4月開校でしたので、初回は開校1年以内に、次回以降は年度末に実施予定です。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	43%	57%		現在は本社からの内部監査などを中心に業務改善に努めております。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	法定研修を含めた定例研修を実施しております。	毎月の研修後に、報告書を各自作成。参加できない者にも、要約等を随時共有しております。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	画一化しないよう工夫しています。	支援計画を元に児童発達管理責任者が作成し、職員の意見をすり合わせて修正作業を行い、プログラムを作成しております。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	43%	57%		夕方のご利用が多いため、翌日の朝礼にて共有をした上で、支援に入るようにしております。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	71%	29%		周辺の区役所の保健福祉課や保健センターにも教室の状況を定期的にお伝えし連携を図っております。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	86%	14%	「information」(個別通信)を活用しております。	「information」(個別通信)を毎月発行し、所属園にも配布して情報の共有を行っております。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	71%	29%	小学校入学前にサポートブックをお渡しする予定です。	就学前に保護者の了承を得た上で、当該校との共有を行う予定です。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	57%	43%		定期的に他の児童発達支援事業所との情報共有を図り適正な支援ができるよう努めております。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	71%	29%		令和4年7月に外部のお子さまも参加可能な無料イベントを開催しました。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	43%	57%		令和5年3月の「都島区障がい児・者資源フェスタ」への参加を予定しております。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	57%	43%		毎月開催の「こそだてカレッシュ」にご参加いただいたり、ご希望に応じて個別面談の機会を設けさせていただいております。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	29%	71%		コロナ禍で定例の保護者会を開催することは出来ていないため、今後は「日曜開校イベント」にて支援の場を設定することを検討しております。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	43%	57%		令和4年7月に親子参加型の外部交流イベントを開催いたしました。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	57%	43%		令和4年10月に利用児童も参加して避難訓練を実施いたしました。教室保管のヘルメットを着用して訓練を行いました。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	71%	29%		令和4年10月に実施いたしました。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	86%	14%		フェイスシート(契約時に保護者さまがご記入)にて確認しております。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%		配食は行っておりませんが、契約時に利用児童のアレルギー確認を行っております。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	43%	57%		ヒヤリハット事例集は作成しておりませんが、虐待・事故防止のための研修は実施しております。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。